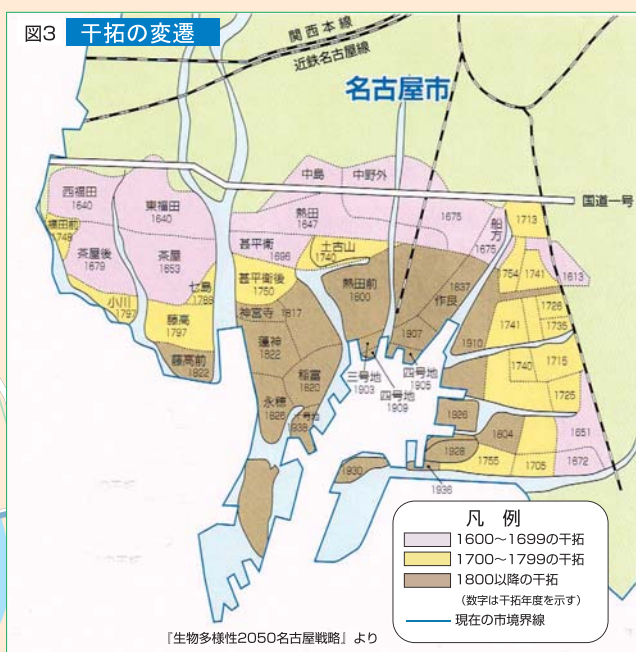


# 中川区 歴史に学ぶ防災マップ

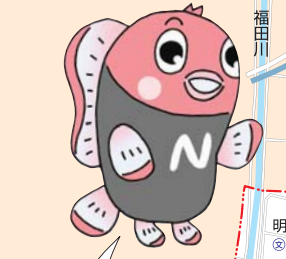
**マップの見方・要点**

- ・マップは明治24年の村落を示したもので、当時は区域内に13の村があり、集落が点在していました。
- ・新川の河道の図2(右下)から、約700年前の庄内川は現在とは流路が大きく異なっていたことがわかります。また、干拓の変遷の図3(真ん中上)から、国道1号線付近から南は江戸時代以降の干拓でつくられた土地であることがわかります。
- ・地名から読み解く(右上)では、昔の地形や土地の成り立ちが推測できます。

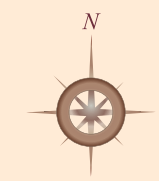


## 地名から読み解く中川区

- Ⓐ 荒子(あらこ) …… 新たに開墾した土地の意味である新治(あらばり)と言う言葉がなまったものとの説があります。
- Ⓑ 高畑(たかばた) …… 周囲より地面の高い畑を開いたので高畑と呼ばれたとの説があります。
- Ⓒ 野田(のだ) …… 沼田(ぬた)が転化したものと言われ、湿地や湿田を意味しているとの説があります。
- Ⓓ 打出(うちで) …… かつて海岸が内陸に入っていた時代、この地域は海へ張り出していたため名付けられたとの説があります。
- Ⓔ 東起(ひがしおこし) …… 起は新しく開墾した土地という意味だと考えられます。
- Ⓕ 長良(ながら) …… 長浦(ながうら)がなまったものと言われます。自然堤防など細長い地形の意味があるようです。
- Ⓖ 下之一色(しものいっしき) …… 一色とは低湿地に住居を定める意味の「居敷(いしき)を定める」に由来するとも、一品種を年貢として納めた土地に由来するとも言われます。
- Ⓗ 長須賀(ながすか) …… 長い砂所(すか)の意味と言われます。砂所とは砂が小高くなった砂丘を意味するようです。
- Ⓙ 戸田(とだ) …… 古くは富田と書かれ、鎌倉時代の荘園・富田荘(とみたのしょう)にまでさかのぼることができます。



120年以上昔には、中川区には13の村があったんだよ



<b>濃尾地震</b>	<b>伊勢湾台風</b>	6 伏屋・戸田駅間	10 長良中学校	<b>東海豪雨</b>
1 万場大橋	3 富田町伏屋橋付近	7 戸田駅	11 八熊通	14 一色大橋
<b>三河地震</b>	4 正徳橋	8 富田中学校	12 昭和橋中学校	
2 荒子観音寺	5 豊治小学校	9 戸田小学校周辺	13 松葉公園	

裏面に写真と解説があります。

**凡例**

- ・ 1891(明治24)年の村落
- ・ 朱色の地名は1891(明治24)年の村落名
- ・ 地図内小学校の [m] は海拔



嘉暦2(1327)年に作成されたといわれる『富田荘絵図』(図1)に、当時の集落や河川の様子が記されています。当時の庄内川は蟹江川、戸田川、庄内川の本流(御厨川)の三つの支流に分かれていたようです。現在とは流路が大きく異なっていますが、図2の旧河道が図1に書かれている川と同じ流路であることがわかります。

